

# 文化財だより No. 3

発行：藤里町教育委員会  
〒018-3201  
秋田県山本郡藤里町藤琴字家の後67  
TEL 0185-79-1327  
FAX 0185-79-2227  
E-mail : kyouiku@town.fujisato.akita.jp

## 特集 白神山地世界遺産センター藤里館イベント情報 『白神の森の縄文文化展』開催中！

白神山地世界遺産センター藤里館では、特別展示「白神の森の縄文文化展」が開催中です(3月末まで)。

この企画展は、冬期閉館中の町歴史民俗資料館の収蔵品の活用や、町の歴史に興味をもつきっかけ作りを目的として、白神山地世界遺産センター藤里館様にもご協力をいただきながら、当教育委員会が毎年開催しているものです。

今回の展示は「縄文文化」がテーマ。会場には、町内で発見された土器や石器、解説用パネルのほか、秋田県立博物館から、今回の企画展のために貸し出していただいた貴重な資料も多数展示しています。

藤里町内には、現在までに14箇所(県に登録済みのもの)の縄文遺跡が見つっていますが、登録が済んでいないものも含めると、もっと沢山の遺跡があると言われています。

いつから藤里地方に人が暮らしはじめたか、はっきりとは分かっていませんが、出土した土器や石器を調べると、約5千年前の縄文時代中期には人々の生活の場となっていたようです。

白神山地のブナ林の誕生は、約8千年前といわれていますから、豊かな森があるのを見つけた人々が、移り住んで来たのかもしれない。

現在、北東北と北海道の縄文遺跡群を世界遺産として登録しようという動きがあります。当町の遺跡は遺産登録候補にはなっていませんが、白神の豊かな森とともに生きた縄文時代の人々にも、ぜひ思いをはせてみてください。

白神の森の縄文文化展は、3月29日まで開催しています。たくさんの方のご来場お待ちしております！



【白神の森の縄文文化展】  
期間：2/24(月)～3/29(日)まで  
場所：白神山地世界遺産センター藤里館  
その他：入館無料 火曜日休館

活あるいは生業と地域の風土によって形成された景勝地で、岩手県遠野市の牧場や、山形県の最上川沿いで、船運で栄えた町などの景観があります。

「伝統的建造物群」は、周りの環境と一体になって歴史的な味わいを形作っている伝統的な建造物群を言います。

秋田県内では、角館の武家屋敷などがこれに当たります。

やや駆け足での紹介になりましたが、皆さんもぜひいろいろな文化財を見て、その土地に暮らしてきた人々の歴史や思いを感じてみてください。

## コラム 文化財まめちしき ～第3回 文化財の種類について②～

前回は有形、無形、そして民俗文化財について説明しました。今回は、文化財保護法の中で分類されている、その他の文化財について説明します。

「記念物」は、遺跡や貴重な動植物、素晴らしい風景などが対象となります。「天然記念物」という言葉を聞いたことのある人も多いのではないのでしょうか？

ちなみに、藤里町では大沢のケヤキや、田中のイチョウなどがこの「記念物」に当たります。

「文化的景観」は、その地域に生きてきた人々の生

## 新説 ふじさとの昔話

『第一回 『山人と水無沼』』

話者 淡路 宏(三沢)  
再話 成田 貴之(町教育委員会)

昔、山には山人(やまびと)というものが住んでいたそう

だ。山人は、太くて大きな木を、たった一人で倒して軽々と運んだり、一日に一升もの飯をたいらげたり、とにかく普通の人間には出来ないようなことをやってのけるのだという。

その昔、水無には今のよう

な沼は無く、沢が一本流れているだけだった。

ある時、一人の山人が「ここに溜池があれば、田や畑をもっと沢山作れるようになる」と思いついた。

村の人々は勿論喜んだが、このことが方々に広まり、役人の耳にも入ってしまった。殿様の山の木を勝手に切り倒し、沢をせき止めるなどんでもないと言ふことで、この山人は役人に捕えられてしまった。当然、山人は何らかの刑に処されると思われたが、よく事情を聞けば、私利私欲のためにしたことではなく、その土地に暮らす人々のためを思いつけたことだと言ふ。そのため、山人は罪を許され、無事放免されたとのこと。その後、村の人々は開墾に励み、村にはたくさん田畑が作られるようになったという。



## 郷土史探求 ～第3回 矢坂地区～

矢坂地区から二ツ井まで伸びる「岩堰」という水路があります。

この岩堰、なんと今から約400年前、江戸時代初期に作られた、とても古い歴史のある水路なのです。

この水路を作ったのは、初代藩主・佐竹義宣の側近であった武将「梅津政景」。

政景は藤琴などの代官を務めた人物で、藩内の鉱山開発や新田開発にも功績のあった人物です。

さて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、町内外で様々なイベントが延期・中止になる中、現在世界遺産センターで開催中の「白神の森の縄文文化展」でも、3月7日に開催予定だった特別講演会が、残念ながら中止となりました。一日も早く状況が改善しすることを切に祈ります。

藤里町教育委員会 皆さんの「意見・感想お待ちしております！」

江戸時代の初期、現在の二ツ井町は水の便が悪く、農業に適さない土地でしたが、この岩堰を整備して藤琴川からの農業用水を確保できたことで、耕作面積が大幅に増え、たくさんの人が生活できるようになりました。

一方で、藤琴川は増水のたびに川筋が変わり、岩堰の維持・修繕には多大な労力を要したことが、旧矢坂村の肝煎家に残されていた「夏井文書」等にも記されています。

この岩堰は、文化財としての指定等は受けていませんが、400年間、その土地に暮らす人々の生活を支えているという事実は、どんな肩書よりも誇れる、素晴らしい歴史だと思います。

## 編集後記

文化財だより第3号は、A3片面での発行となりました。1号、2号よりボリュームダウンはしましたが、これからも皆さんに文化財に関する様々な情報を提供していきたいと思っています。

今回は、新たなコーナーとして「新説 ふじさとの昔話」を掲載しました。皆さんの周りでも、町の昔話に詳しい方がいれば、教育委員会には是非「一報ください」。

さて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、町内外で様々なイベントが延期・中止になる中、現在世界遺産センターで開催中の「白神の森の縄文文化展」でも、3月7日に開催予定だった特別講演会が、残念ながら中止となりました。一日も早く状況が改善しすることを切に祈ります。